青山国際政経論集 93 号，2014 年 11 月

研究ノート

「スペイン王立アカデミア」編纂『スペイン語辞書』第 23 版への見出し語「ライシダー（laicidad）」採用について

渡　邊　千　秋*

はじめに

スペインは，1978 年に発布された現行憲法上「いかなる宗派も国家的性格をもたない」[1] 国家である。隣国フランスでの 200 年以上にわたる政教分離いわゆる「ライシテ」原則をめぐる宗教的・政治的・社会的模索を横目に[2]，スペインでは民主化以後にやっと，フランスと類似の現象が顕在化しはじめたばかりであるともいえる[3]。顧みれば，フランコ独裁体制下（1939–1975 年）においては国教＝ローマ・カトリック教であったスペインが，民主化を遂げた現在に

* 青山学院大学国際政治経済学部教授

1) 参議院憲法調査会事務局『スペイン憲法概要』2001 年，p. 28. 第 16 条の条文は以下のとおり。「① 個人及び団体の思想，宗教及び礼拝の自由はこれを保障する。その表明については，法律により保護される公の秩序の維持に必要な範囲を超える制限を受けない。② 何人も，その思想，宗教又は信仰を表明することを強制されない。③ いかなる宗派も国家的性格をもたない。公権力は，スペイン社会の宗教的信条を考慮し，カトリック教会及びその他の宗派との当然の協力関係を維持する。」

2) フランスの「ライシテ」の歴史については，特に以下の文献を参照されたい。レモン，ルネ『政教分離を問いなおす――EU とムスリムのはざまで』（工藤庸子・伊達聖伸訳解説），青土社，2010 年。（René REMOND: *L'invention de la läicité française. De 1789 à demain*, Bayard Éditions, 2005）

3) 確かにスペインでもカナレハス政権下（1909–1912 年）での「結社」として宗教団体を扱おうとする動きや，第二共和政期（1931–1936 年）のイエズス会追放，教育の脱宗教化など，国家の宗教的な中立を目指した政策の展開が期待された時期もあったが，いずれも短期間の一時的な出来事に終わっている。

© Aoyama Gakuin University, Society of International Politics, Economics and Communication, 2014

おいて政教分離という新しい状況にどのように適応しているか整理することには大きな意義があると思われる。政教分離への適応によっておきた，ローマ・カトリック教に色濃く影響を受けた社会習俗にみられる変化は，スペインにおいては現在進行中のできごとであり，さまざまなコンフリクトを生んでいる[4)]。本稿では，そのような現況を象徴する一つの事象として，フランス語の「ライシテ（läicité）」のスペイン語訳といえる「ライシダー（laicidad）」という単語が，主要なスペイン語辞書でどう扱われてきたのかを考えたいと思う。特に，2014年10月発行予定のスペイン王立アカデミア編纂『スペイン語辞書』に，この辞書の長い歴史上初めて掲載されるはずのこの単語に注目しつつ，いくつかの課題を提起したい[5)]。

1. スペイン王立アカデミア編纂『スペイン語辞書』の位置づけ

スペイン語辞書[6)] は数多くあるが，なかでも権威的存在とされるのは，「スペイン王立アカデミア（Real Academia Española：以下「アカデミア」と略記）」が発行する辞書である[7)]。現在「アカデミア」はスペイン国の首都ドリード市内にあるプラド美術館近く，フェリペ4世通りにその本部を置く[8)]。1713年に第8代ビリェナ侯爵フアン・マヌエル・フェルナンデス・パチェコの提唱によって創設されてから現在まで，ほぼ3世紀にわたる歴史をもつ組織である。このスペイン初の「アカデミア」は，フランス・ブルボン朝の流れをくむフェリペ

4) スペインにおける宗教的現状については，以下の文献を参照されたい。北原仁，芳賀学「第3章スペイン」文化庁編『海外の宗教事情に関する調査報告書』文化庁，2012年，pp. 135–185. また和文で読める法律関連文書等については，文化庁編『海外の宗教事情に関する調査報告書資料編8スペイン宗教関連法令集』が参考になる。
5) 本稿で参照した全URLの最終アクセス確認日は2014年7月30日である。
6) 本稿で述べるスペイン語辞書とは，見出し語・説明ともにスペイン語である辞書をさす。対訳辞書についてはその旨記すものとする。
7) スペイン語の原名称には「言語の（de Lengua）」にあたる表記はないが，スペインで「アカデミア」といえば，通常は言語のアカデミアを指す。また現在は，他の7つのアカデミアとともに，スペイン学院（Instituto de España）のもとに置かれる。
8) 現住所は c/Felipe IV, 4. 28014, Madrid.

5世のもとで出された1714年10月3日勅令により公認を受けた。フランス啓蒙思想の影響を受け，アカデミー・フランセーズを模範として設立されたこの組織は，時代のニーズに合わせて規範となるべきスペイン語を示し，管理する事業を展開してきた[9]。その標章には「浄化し，確定させ，光輝を与えよ（"Limpia, Fija, Da Esplendor"）」[10] と刻まれている。

1715年の定款[11]では会長・書記長含む24名の正会員で構成された「アカデミア」は，ことばの変化を放置したことで生じた語彙や話し方，また言語構造などにみられる全ての間違いを正し，純粋で優雅なカスティーリャ語（スペイン語）を育て，定着させることを活動目的と定めた。この方針に従って第一義の任務として取り組んだのが辞書の編纂であり，それにつづく統一文法書の編纂であった[12]。

「アカデミア」が初めて編纂した辞書は『出典辞書（*Diccionario de Autoridades*）』という通称で知られる全6巻の大著であり，1726年から1739年にかけて出版された[13]。その後1780年に，「アカデミア」は広範な読者層への普及を目指してより簡略化した辞書を新たに刊行した[14]。この1780年の辞書が，改訂を経て現在に続く『スペイン語辞書（*Diccionario de lengua española de la Real Academia Española*）』の基盤となったのである[15]。

9） http://www.rae.es/la-institucion/historia/origenes

10） 標語の日本語訳については以下を参照されたい。寺﨑英樹『スペイン語史』大学書林，2011年，p. 239.

11） http://www.rae.es/sites/default/files/Estatutos_1715.pdf

12） 2014年7月現在「アカデミア」は正会員46名，最大で60名のスペイン国内準会員（académicos correspondientes），同じく最大60名のスペイン国外準会員，そして名誉会員とで構成される。現行の定款はフアン・カルロス1世が署名し，1993年7月30日付官報に掲載された。*BOE*, núm.181, 30 julio 1993, pp. 23267–23271. なお現行定款は，以下のURLで読むことができる。（http://www.rae.es/sites/default/files/Estatutos_1993.pdf）

13） 正式書名は *Diccionario de la lengua castellana en que se explica el verdadero sentido de las voces, su natulareza y calidad con las phrases y modos de hablar, los preverbios o refranes, y otras cosas convenientes al uso de la lengua.* なお，以下のURLでは，この辞書の単語検索ができる。http://web.frl.es/DA.html

14） この版では辞書は1冊に集約された。

15） 1925年の第15版以降は，辞書の題目における「カスティーリャ語」という言語

ところで，スペイン語圏はスペインはもとよりラテンアメリカから赤道ギネアまでを含む広大な面積を有するため，実際に運用されているスペイン語には各地域での差異・変形が数多くある[16]。そのような言語的に多元な状況は，時に辞書の編纂という包括的な意味集約の作業には大きな困難をもたらす。そこで，この課題を克服しようとした「アカデミア」は，語源に議論の余地がある語については特に細心の注意を払って再考しつつも，公の利益を追求し，スペイン語を豊かなものとするために，常に新しい見出し語の採用を志し，スペイン語の規範作りを行ってきた[17]。だからこそ，「アカデミア」編纂の『スペイン語辞書』は，数あるスペイン語辞書を代表する，まさしく権威ある存在であり続けており，また，現在の標準的なスペイン語が驚くほどの統一性を保っているのは「アカデミア」によるところが大きいという評価もなされている[18]。

2. 「アカデミア」による見出し語「ライシダー (laicidad)」の採用

「アカデミア」編纂の『スペイン語辞書』は，本稿執筆中の2014年7月末において22版を重ねるが，2014年10月には，「アカデミア」設立300周年を記念する事業として，第23版の発行が予定されている[19]。

本稿が注目するのは，この改訂で新たに挿入される予定の見出し語の1つ「ライシダー (laicidad)」[20] である。これはフランス語の「ライシテ (läicité)」にあたる語である。この語は，フランスでは「国教を立てることを禁じ，いっさい

に関する表記が「スペイン語」に変更された。寺崎英樹，前掲書，p. 240.

16) 上田博人「これからのスペイン語辞典」『京都産業大学国際言語科学研究所所報』15巻2号，1994年，p. 26.

17) Real Academia Española, *Diccionario de la Lengua Castellana por la Real Academia Española*. Decimocuarta Edición, Madrid, Imprenta de los sucesores de Hernando, *1914*, p. VII.

18) 小林一宏「アカデミア」，池上岑夫他編『スペイン・ポルトガルを知る事典・新訂増補』平凡社，2001年，p. 6.

19) 発行準備作業は2014年3月に完了し，原稿は出版社に手渡された。http://www.rae.es/diccionario-de-la-lengua-espanola/sobre-la-22a-edicion-2001/novedades-de-la-edicion

20) 本稿では以降，このスペイン語の単語を「ライシダー」と表記する。

の既成宗教から独立した国家により，複数の宗教間の平等ならびに宗教の自由（個人の良心の自由と集団の礼拝の自由）を保障する，宗教共存の原理，またその制度」を指す用語としてほぼ定着しており，またその初出は，19世紀末，1871年出版のリトレ仏語辞典の補巻に掲載された見出し語「ライシテ」であるとされる[21]。しかし，フランスでおきた状況とはある意味対照的でもあるが，スペイン語における「ライシダー」の使用は近年まで限定的なものに留まった。そのような状況を反映する例がスペイン語の権威「アカデミア」発行の『スペイン語辞書』での「ライシダー」の扱いである。「アカデミア」は2014年10月に発行される第23版の『スペイン語辞書』で初めて，見出し語「ライシダー」を採用することとしたのである[22]。

正式の出版前にこのことが判明したのには，インターネットの働きによるところが大きい。「アカデミア」の公式ホームページは，2001年発行の『スペイン語辞書』第22版をインターネット上で検索できる機能を備えている。その機能を使用して単語「ライシダー」の検索を行うと，第23版に掲載予定の新しい見出し語として同単語があらわれる。なお，解説として「ライシダー：1. 女性名詞．ライコ（laico）の状況。2. 市民社会と宗教社会との間の分離」と示される[23]。

ちなみにスペイン語「ライシダー」は単語「ライコ」を語基として，この語基に，二音節の形容詞につく場合は -idad と変形する接尾辞 -dad とが合成されてできた派生語である。接尾辞 -dad は，ある形容詞から派生してその形容詞の性質・状態の意を表す女性名詞をつくる役割を果たす。ということは，「アカデミア」編纂『スペイン語辞書』第23版で掲載予定の「ライシダー」の解説1にある「ライコ」の意味が確認できなければ，そこで定義される「ライコ」の状況はまったく不明瞭であり，したがって「ライシダー」の意味・定義も不明瞭

21） 三浦信孝・伊達聖伸「キーワードの訳語と解説」ボベロ，ジャン『フランスにおける脱宗教性の歴史』（三浦信孝・伊達聖伸訳），白水社，2009年，p. 9。（Jean BAUBÉROT: *Histoire de la läicité en France*, PUF, 2000.）

22） これは21世紀に入ってから2回目の改訂にあたる。

23） “Artículo nuevo. Avance de la vigésima tercera edición. 1. Condición de laico. 2. Principio de separación de la sociedad civil y la sociedad religiosa.” 参照 URL: http://lema.rae.es/drae/?val=laicidad

である，ということになる。よって，まずは「ライコ」の意味を明らかにしておきたい。

「ライコ」とは，もともとはギリシア語で人々を表す laós から派生した単語である[24]。1852 年に発行された「アカデミア」の『スペイン語辞書』第 10 版によれば，「ライコ」は通常は名詞として使われており，聖職者特権を享受しない平信徒を意味すると定義されている[25]。しかし，2001 年に「アカデミア」が出した『スペイン語辞書』第 22 版では，「ライコ」とは，聖職者階級をもたないという意味もしくは，いかなる宗教宗派や組織からも独立した，という意味で用いられる形容詞であるとされた[26]。つまり，21 世紀・現代のスペイン語では，「ライコ」には平信徒を意味する名詞の意味が薄れ，「非聖職者的な」「脱宗教的な」といった日本語をあてはめることのできる形容詞として使用されているようである。まさに 2001 年第 22 版で挙げられている 2 つの具体的用例「脱宗教的国家 (Estado laico)」「脱宗教的教育 (Educación laica)」は，こういった使用上の変化，現象を担保するものである。また，1914 年発行の「アカデミア」発行『スペイン語辞書』第 14 版までさかのぼると，見出し語としての「ライコ」には，宗教的教育を欠いた学校教育について用いるとの解説が掲載されている[27]。くわえて，この第 14 版で「ライコ」から派生した語に注目すると，たとえば「ライシスモ (laicismo)」という見出し語があることに気づく。説明には，「ライシスモ」とは「(ライコから派生した) 男性名詞であり，全ての聖職者的・宗教的影響から人や社会の独立を遵守する理論である」と記述されて

24) 太田強正『スペイン語語源辞典』春風社，2012 年，p. 250.

25) もともとは，ラテン語の laïcus に由来する。Real Academia Española, *Diccionario de la lengua castellana por la Academia Española*. Décima edición, Madrid, La Imprenta Nacional, 1852, p. 408.

26) Real Academia Española, *Diccionario de la lengua española, h/z*. Vigésima segunda edición, Madrid, Editorial Espasa Calpe, 2001, p. 1343.

27) Real Academia Española, *Diccionario de la lengua castellana por la Real Academia Española*, Decimocuarta edición, Madrid, Imprenta de los Sucesores de de Hernando, 1914, p. 602. "Dicese de la escuela o enseñanza en que se prescinde de la instrucción religiosa."

いることも把握しておく必要がある[28)]。

ここで繰り返しておくが，2001年に出版された第22版でも，「アカデミア」編纂の『スペイン語辞書』ではフランス語でのライシテに相当する見出し語「ライシダー」は採用されなかった。この見出し語の紙媒体辞書への正式掲載を確認するには，2014年10月発行予定の第23版を待たねばならない。

3. その他のスペイン語辞書もしくは西日対訳辞書見出し語としての「ライシダー」

しかし，「アカデミア」発行の『スペイン語辞書』が採用しなかったからといって，スペイン語にはこれまで「ライシダー」の概念が全く存在しなかったというわけではない。また「ライシダー」という単語が，どの辞書にも採用されてこなかったということでもない。実は，「アカデミア」以外の辞書は，「ライシダー」を比較的早く採用している。使いやすさで定評のあるスペイン語辞書は「アカデミア」編纂の辞書以外にもある。たとえば，マリア・モリネール『スペイン語用法辞典』は，スペイン語を母語としない者も辞書の使用対象者として考慮し，ニーズの多様性に答えているという定評がある。確かにこの辞書においても，1981年の初版では「ライコ」「ライシスモ」は採用されたが，「ライシダー」に関する記載はない[29)]。しかし，2007年に出版された第3版では「アカデミア」に先がけて見出し語「ライシダー」が採用され，「ライコの性質」を意味する単語という説明が掲載されている[30)]。

また，スペイン語—日本語の対訳辞書には以前から見出し語「ライシダー」が採用されている事実がある。日本における初めての本格的スペイン語—日本語対訳辞書と評される高橋正武編『西和辞典』（白水社，1958年初版・1979年増補版発行）は，その増補版で，見出し語「ライシダー」を「ライシスモ」と

28) Ibid., p. 603. "(De Laico.) m. Doctrina que defiende la independencia del hombre o de la sociedad de toda influencia eclesiástica o religiosa."

29) María MOLINER: *Diccionario de uso del español, H-Z,* tomo II, Madrid, Gredos, 1990, p. 215.

30) Id: *Diccionario de uso del español J-Z,* tomo II (3ed.), Madrid, Gredos, 2007, p. 1735.

同義と記した[31]。そこで「ライシスモ」を引いてみると，男性名詞として「宗門の手を離れること，俗化，人本主義」という定義がある[32]。なお，-ismo という接尾辞は，制度・体系・主義・主張を表すものであり，-dad という性質・状態を表す抽象名詞をつくる接尾辞とは本来的なところで意味が異なると類推されるが[33]，この定義は現実の用法に即してつけられたと思われる。

その後 1990 年に小学館から発刊された『西和中辞典』では，見出し語として「ライシダー」が採用された。小学館『西和中辞典』では，高橋の『西和辞典』と異なり，スペイン語「ライシダー」を「世俗主義，脱宗教性」として，また「ライシスモ」を「1. 世俗性，非宗教性　2. 世俗主義（政治を非聖職者の支配下に置こうとする思想）；脱宗教化推進，政教分離主義」と訳出し，それぞれを異なる単語として掲載する[34]。この小学館『西和中辞典』をもって，スペイン語―日本語対訳辞書のなかで「ライシダー」がはじめて独立した見出し語となったと考えてよいであろう。

スペイン語辞書の権威である「アカデミア」の『スペイン語辞書』ですら未採用であった「ライシダー」という見出し語を，日本語話者を念頭に置いて編纂された対訳辞書である『西和中辞典』が採用した理由を，いったいどこに求めることができるだろうか。これは，『西和中辞典』の編集者たちが「文例が豊富で現代語に重点を置いているラルース社の "*Diccionario Moderno Español-Inglés English-Spanish*" に範を求め」[35] たことに起因すると考えられる。いうまでもなくラルース社は，19 世紀半ばにフランスの P. A. ラルースが設立した出版社であり，百科事典をはじめとする辞書編纂に定評のある会社である。

続く 1992 年に研究社から発刊されたルビオ，カルロス，上田博人編『新ス

31）見よ項目扱いであり，「laicidad = laicismo」とのみ記されている。高橋正武編『西和辞典増訂版』白水社，1981 年（増訂版 3 刷），p. 544.

32）同書，p. 544.

33）このような点を当時のスペイン社会での単語の使用のされ方を考察しないまま，編者の誤訳として捉えるべきではないと考える。類義関係にある単語の意味の異同をどう考えるのかが問われる。

34）桑名一博他編『西和中辞典』小学館，1990 年，p. 1151.

35）同書，pp. 1–2.

ペイン語辞典』では見出し語「ライシダー」は採用されなかったが[36]，同じ編者が同じ出版社から2006年に刊行した『プエルタ：新スペイン語辞典』には掲載され，世俗主義・非宗教性と訳されている[37]。また高橋正武編『西和辞典』の後継といえる白水社から1999年に出された『現代スペイン語辞典』でも「ライシダー」は採用され，世俗性・非宗教性と翻訳されている[38]。また興味深いことに，「類義語や反意語にも目配りした新しい西和辞典をつくる」意図で編纂された原誠他編『クラウン西和辞典』の見出し語「ライシダー」には中南米が使用地域であることが記され，見出し語「ライシスモ」を参照するようにという指示がでている[39]。

4. 20世紀スペインにおける既存語としての「ライシダー」

スペインにおける日常的使用語彙としての「ライシダー」がいつから使用されはじめたのか正確に確認することは困難であるが，学術分野の専門用語としての「ライシダー」の使用は，少なくとも，フランコ独裁体制期にまでさかのぼることができる。当時の政教一致の原則的状況のなかにあっても，研究者・専門家たちは語彙としての「ライシダー」を使用していた。たとえば，スペインのラ・リオハ大学が中心となって構築したスペイン語論文・研究書等の検索サイト「ディアルネット（Dialnet）」で「ライシダー」という語の単純検索をお

36) ルビオ，カルロス・上田博人編『新スペイン語辞典』研究社，1992年。

37) ルビオ，カルロス・上田博人編『プエルタ：新スペイン語辞典』研究社，2006年，p. 1072.

38) 宮城昇，山田善郎編『現代スペイン語辞典改訂版』白水社，1999年。新しい辞典を編纂する道半ばで死去した高橋に代わり，編者が志を継いだ。編者によるまえがきでは，以下のように述べられている。「このところの世界情勢の進展，社会の変化はあまりにも目まぐるしく，それにつれて語義にも変動がみられ，新語が続出してくるありさまである。ここに至って，高橋先生は構想を練り直して，新しい辞典を作ることを決意された。現代の生きたスペイン語に焦点を定め，学習者がめったに出くわすことはなかろうと思われるような単語は思い切って省き，そのぶん，語法辞典の要素を大幅に取り入れることにしたのである。」

39) 原誠他編『クラウン西和辞典』三省堂，2005年，p. 1160. この辞書では，スペインでの「ライシダー」という単語の使用状況については全く言及がない。

こなうと，644件ヒットする[40]。そのなかで最も古い論文は，1957年に発表されたカトリック教会の聖職者であるヒメネス・ウレスティによる「国家の宗派性とライシダー」という論文である[41]。また同様に聖職者であるモスタサ・ロドリゲスは1977年に「国家の宗派性・ライシダーもしくは政教分離体制」という論文を発表した[42]。この二人に代表されるように，第二バチカン公会議の前後から，スペイン・カトリック教会の聖職者が「ライシダー」という語に敏感に反応していたことは間違いあるまい。また他方，2000年代以降には，国家の宗教的中立・宗教的に多様な現代社会を受け入れざるをえない状況を前にして，カトリック教会とその聖職者の「ライシダー」をめぐる議論にも多様性が見られるようになっている。

スペインでは，ローマ・カトリック教会の見解としての「ライシダー」が出されるのも，2000年代になってからである[43]。たとえば，2011年には，ブルゴス大学北スペイン神学部で教鞭をとるブエノ・デ・ラ・フエンテが編集した『スペイン・ラテンアメリカにおける現代キリスト教事典』は，「ライシダー」と「ライシスモ」概念に関する意味づけの不正確さ・定義にあたっての困難を提示している[44]。この事典は，「ライシダー」を ① 公共の場での政教分離を徹

40) ただしこのデータベースが全てのスペインの学術論文を網羅していると断言することはできない。また，資料検索用の URL は以下のとおりである。http://dialnet.unirioja.es/documentos

41) Teodro Ignacio JIMÉNEZ URESTI: "Confesionalidad y laicidad", *Scriptorium Victoriense*, vol. 4, núm.1, 1957, pp. 72–104. ヒメネス・ウレスティ（1924–1997年）はビルバオ出身の聖職者。デウスト大学で教理学の教鞭をとった。また，スペイン司教団から，専門家として第二バチカン公会議に出席した。

42) Antonio MOZTAZA RODRÍGUEZ: "Régimen de confesionalidad y de laicidad o separación. Valoración y perspectivas, *Miscelánea Comillas*, vol.35, núm.66, 1977, pp. 39–75. モスタサ・ロドリゲス（1912–2008年）はヒトラーの要請によってスペインが派兵した義勇兵団「青い師団」における従軍司祭経験をもつ聖職者。のちバレンシア大学で教会法を教えた。

43) 1970年代に編纂され，1980年代に増補が出版された『スペイン教会史辞典』はローマ・カトリック教会に関する歴史的事項・教義解説で定評を得ているが，「ライシダー」についての言及はみられない。Quintín ALDEA VAQUERO, Tomás MARTÍN MARTÍNEZ, José VIVES GATELL (eds.): *Diccionario de historia eclesiástica de España*, 4 vols. y un suplemento, Madrid, CSIC, 1972–1975, 1987.

44) Eloy BUENO DE LA FUENTE, Roberto CALVO PÉREZ: *¡Abba! Enciclopedia*

底する姿勢である分離のライシダー ② 宗教的な事象を否定し社会における全ての宗教的要素を拒絶するところから公共の場からの宗教の排除を求める拒絶のライシダー ③ 肯定的に宗教をとらえ，さまざまな合意を経ながら公共の場での宗教の存在を支持する承認のライシダーという3つの典型例にわけたうえで，② のタイプと「ライシスモ」とがほぼ同義であると解説する。このように，実際のところ，専門家によって，スペイン語の「ライシダー」が意味する内容は多義的であることが容認されているのだ。

2000年以降より実生活に則した範囲で「ライシダー」を追求する団体も活発な活動を行っており，「ライシダー」という単語が「市民権」を得るのに一役かっていることはまちがいあるまい。2000年には「権利，ライシダーと自由協会」により雑誌『ライシダーと自由』の発刊が開始された[45]。また2001年にはマドリードで「ライックなヨーロッパ」という協会が設立され，「ライシスモ」を基本的人権としての良心の自由を発展させるために必要な事象であると位置づけ，「ライシダー」に基づく宗教的・文化的に多元な社会の実現のための活動を展開している[46]。同年7月にはアンダルシア自治州のモトリルで第1回「ライシダー」のための会議が開催された。また，2002年9月には，さまざまなグループが参加してライックな社会のための綱領が出された[47]。2008年9月には「キリスト者ネットワーク」が新たに「ライシダー宣言」を出し，スペインにおける政教分離を妨害するのは1979年のスペイン政府とローマ教皇庁の合意であるとして，その破棄を求めると同時に，政治における宗教的多元性の擁護のための「ライシダー」を提案している[48]。また，脱宗教的な教育をめぐ

---

del cristianismo contemporáneo entre España y Latinoamérica, Burgos, Monte Carmelo, 2011, pp. 893–899. なおこの事典は出版にあたって，カルメル修道会に属するフェルナンド・ドミンゴ・ドミンゴ検閲官の審査を受けている。

45) Asociación Derecho Laicidad y Libertades (ed.), *Laicidad y Libertades. Escritos jurídicos*, Madrid. ISSN:1696–9837.

46) http://laicismo.org//detalle.php?pk=130#ppal

47) Rafael DÍAZ SALAZAR: *España laica*, Madrid, Espasa Calpe, 2008, p. 106.

48) http://www.redescristianas.net/2008/09/06/manifiesto-por-la-laicidad-redes-cristianas/

る一連の社会運動[49]や公的機関がローマ・カトリック教の宗教的表象を用いる慣習の打破を目指して法廷闘争が現在も続くのが現状である[50]。しかしこういった「ライシダー」追求の動きを見せるグループの求める「ライシダー」が全て同じものを指すのか，という点では疑問が残る。

おそらく，スペインという国が国家宗教＝ローマ・カトリック教へと回帰することは今後もないであろう。とはいえ，教育に宗教がどうかかわるのか，人工妊娠中絶，尊厳死，同性婚などを受け入れるか否か，といった，ローマ・カトリック教の教義の根幹にかかわる課題をめぐる社会的コンフリクトが現在もおきているスペインにおいて，「ライシダー」がどのように受容され使用されていくのか，見極めることは困難である。また，イスラームの移民が増加するなかで，彼らの存在をスペイン社会がどう受けとめるのかといった，「ライシダー」とは何かを根底から再考させる問題が生まれている状況でもある。このようなヨーロッパ連合域内全体の課題といえる事項も顕在化しつつあることもここに記しておきたい。

現状では，無神論者からインテグリスタまで，「ライシダー」を自分たちの追求する目標に「都合のよいように」理解し，使用する現状があるのは否めない。とすれば，「アカデミア」の『スペイン語辞書』23 版で「ライシダー」が「ライコの状況」というような，さまざまなニュアンスを包摂する可能性を残す定義をあえてとったという理解も可能かもしれない。

おわりに

フランス語のライシテを援用しながら誕生したともいえるスペイン語の「ラ

49) 渡邊千秋「現代スペインにおける社会心性としての「世俗化」: 公共の場からの十字架撤去をめぐって」『青山国際政経論集』85 号，2011 年，pp. 141–155.

50) たとえば最近では，ヌエストロ・パドレ・ヘスス・エル・リコ信徒団が崇める聖母マリアに対しスペイン警察が功績をたたえる金メダルを授与したことをめぐって訴訟が起こされている。“Interior se remonta al 38 para justificar la medalla de la policía a la Virgen”. *El País*, 13 julio 2014. http://politica.elpais.com/politica/2014/07/13/actualidad/1405280763_931299.html

イシダー」という用語は，スペイン語の権威「アカデミア」の『スペイン語辞書』が2014年になって採用した「新しい」単語である。

今回の「アカデミア」による単語「ライシダー」のいわば「追認」は，スペイン社会において「ライシダー」と呼ぶことが可能な状況が存在することを「アカデミア」が容認したことを端的に意味する。1975年まではローマ・カトリック教が国教であったとはいえ，現在のスペインは，ヨーロッパ連合の一員としてスペイン国内で生きる人々の宗教的多元性を容認する姿勢を明示している。今後は，民主的で多元的な社会の実現のために，ファンダメンタルな無神論的思考を持つ人々とローマ・カトリック教の教えをファンダメンタルに守ろうとする人々との双方がどのような行動をとるのかが「ライシダー」の実践をめぐる争点となろう[51)]。

果たして「ライシダー」の意味をめぐり宗教的言語と世俗的言語とのあいだで合意が形成されるのか否か，「ライシダー」が内包する異同が決定的に解消されのるか否か，といった，スペイン社会の脱宗教化をめぐる関連事象の今後の展開を詳細に追うことはこれからの研究に課された第一義の課題である[52)]。その一方で，日本に生活のベースをおきスペインの事象を紹介する役割を負う者としては，フランス語とスペイン語という言語の成り立ちに極めて明確な類似性があるとはいえ，この二つの言語には差異があることを忘れずに，フランス語で使用される「ライシテ」とは異なる状況を含む可能性をもつスペイン語の「ライシダー」を日本語でどう翻訳し，どう説明するのかを問われていることをも忘れてはならないだろう[53)]。比較社会史の視野をもちつつ，「ライシダー」の

51) Rafael DÍAZ SALAZAR: op. cit., p. 99.

52) この点では言説分析の手法はもちろんのこと，公共圏に関する政治学や社会学での研究成果を援用することを射程にいれるべきであろう。学際的探求を試みるうえでの問題点と課題については，たとえば以下の文献がわれわれの視野をひらく。木部尚志「共同翻訳と公共圏のポリフォニー――ハーバーマスの〈ポスト世俗社会〉論」日本政治学会編『年報政治学 2013-I 宗教と政治』木鐸社，2013年，pp. 60–80. 伊奈正人『C. W. ミルズとアメリカ公共社会：動機の語彙論と平和思想』東京女子大学学会，2013年。

53) なお，フランス語の「ライシテ」を日本語に翻訳する上での困難については，宗教学からのアプローチにおいても既に述べられている。「ライシテという言葉は，日本

ような特定の単語が果たしてどのような意味で，またいかなる広がりをもって運用されているかを調べることによって，現代スペイン社会における人々の意識を推察する道が開けるであろうと考えている[54)]。

語では『非宗教性』『政教分離』『世俗性』などと訳されているが，なかなか一語で表現しきることはできない複合的な概念である。」伊達聖伸『ライシテ，道徳，宗教学：もうひとつの19世紀フランス宗教史』勁草書房，2010年，pp. 1–2を参照されたい。

54) たとえば，島薗進はキリスト教とは異なる文化・文明圏でライシテ概念を用いる場合には，ライシテの内実を明らかにしつつ，それぞれの文化・文明圏でライシテに対応する現象がどう生じたかを調べ，共通の言語で論じるための基盤を整えるべきと述べる。広い意味ではキリスト教文明圏という共通項をもつスペインでのケースでも，同様の姿勢が求められると考える。島薗進「日本の世俗化と新しいスピリチュアリティ——宗教社会学と比較文化・比較文明の視座」『社会史林』57巻4号，2011年，pp. 26–27.

本研究ノートはJSPS科研費24510356による研究成果の一部である。